

2024年度 東洋大学 IR ニュースレター Vol.3 (通算第16号)

生活時間・授業経験・ 身に付いた能力・不安・満足度 —2024年度在学生アンケートの結果分析—



東洋大学
学長・IR室長 矢口悦子

2024年度の在学生アンケートの分析結果をお届けいたします。在学生アンケートでは例年、学生の生活時間や学修状況、授業での経験について調査しており、その結果は、本学の教育活動の改善に向けたヒントを提供してくれます。

生活時間の経年比較によると、授業との関連の有無を問わず学習時間が増えてきています。一方で、日頃から見聞きする学生たちの様子から感じていたことではありますが、就職活動に費やす時間の増加も調査結果に表れており、大学で提供する就職・キャリア支援の転換期にあることを改めて感じています。

授業での経験については、先生方の授業運営上の工夫により、主体的な学びを経験する学生の割合が毎年着実に増えていることがわかります。また、不安を感じる学生の割合が年々減少しており、大学生活への満足度が向上していることも特筆すべき点です。これらの結果は、教職員が日々取り組んでいる教育改善の成果の一端を示していると同時に、今後のさらなる改良への可能性を示しているように思います。

本ニュースレターを通じ、学生調査の結果を皆様と共有することで、より良い教育環境の実現への一助になれば幸いです。今後も、学生と教職員が共に学び、成長する環境を育むべく邁進して参りますので、皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

調査の概要

実施期間: 2024年12月9日(月)～2025年1月5日(日)

回答状況: 在学生(全学部1～4年生) 29,766 名中4,643名(回答率15.6%)

学年の分布: 1年生37.6%、2年生23.1%、3年生15.4%、4年生23.8%

実施方法: Webアンケート(Googleフォーム)

分析担当: IR室 教授 劉文君

分析の目的

学生の学修・授業外活動などの生活時間はどのように変化してきたか、また、在学中の経験、受けた授業形態の変化・身に付いた能力・満足度などについて、過年度と比較しつつ、その実態と課題を明らかにし、分析結果を本学の教育改善及び学生へのサポートなどに役立てる。

1.生活時間の变化

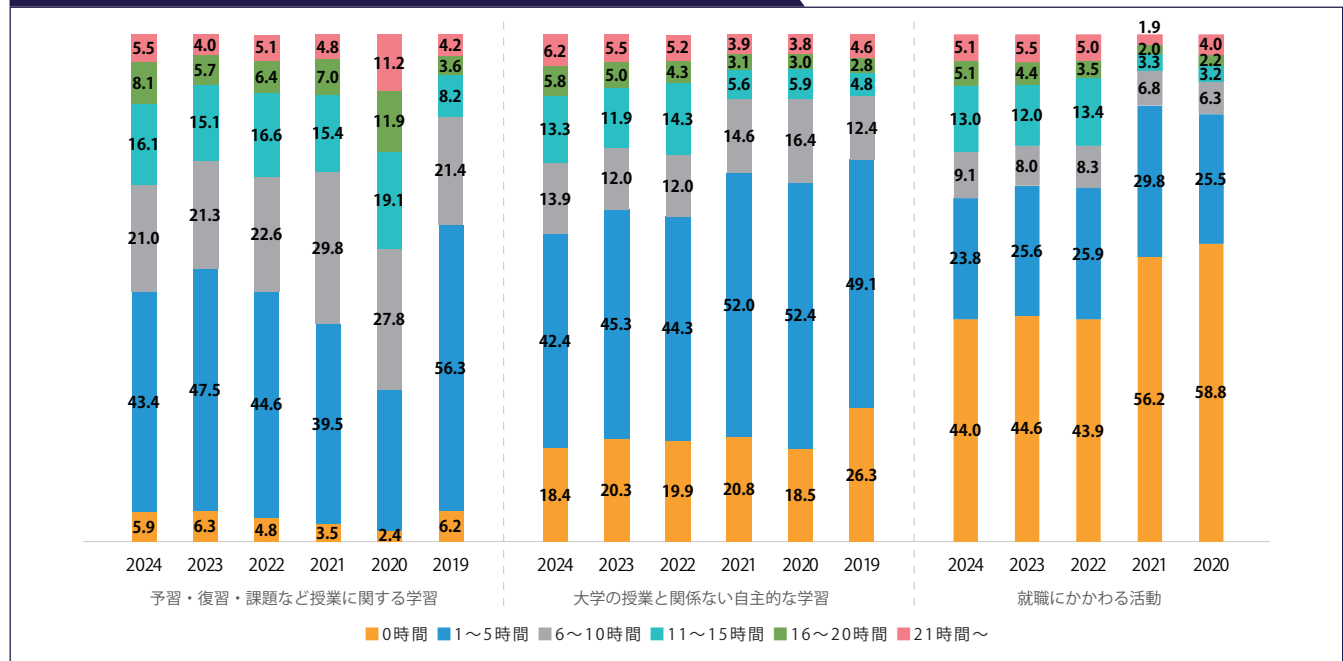
設問「春学期の平均的な1週間(7日間)の生活時間について、当てはまる時間数を選択してください。」について、まず、学修・就職活動に関する回答の変化を見てみる(図1)。

①学修・就職活動

「予習・復習・課題など授業に関する学習」の時間は、2020年度では、オンライン授業で「課題」が多いため、＜0時間＞＜1～5時間＞(以下「過少」とする)の割合が2019年度より大きく減少した。その後、「過小」の割合は増加し続けたが、今年度は減少に転じた。また、「大学の授業と関係ない自主的な学習」の「過少」の割合は昨年度より減少、6年度間で最も低い。「授業に関する学習」「自主的な学習」時間は、いずれも昨年度より増加している。

「就職にかかわる活動」時間は、「過少」の割合は2022年度を境に減っている。近年就職にかかわる活動の時間は増加傾向にある。

図1 学修時間(2019～2024年度)・就職活動時間(2020～2024年度)・%

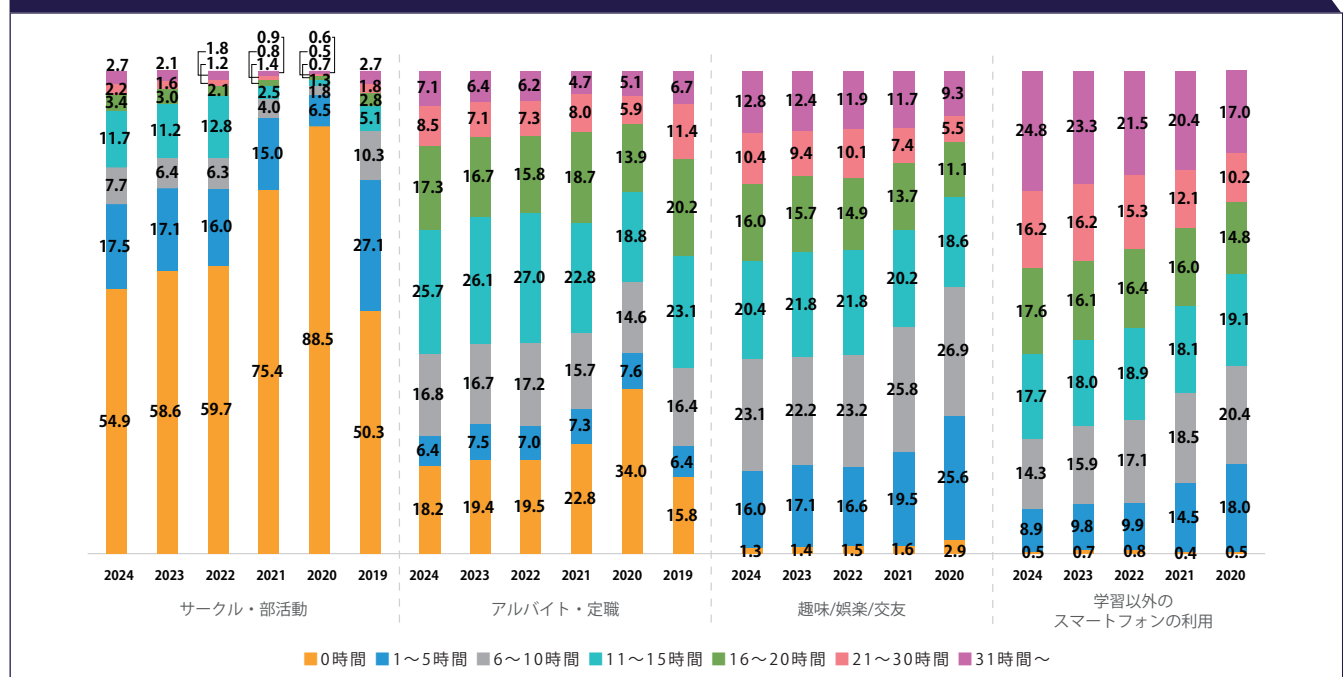


②学修外活動

図2に示すように、「サークル・部活動」「アルバイト・定職」の時間は、「過少」の割合が昨年度より減少し、ほぼコロナ禍前の2019年度と同程度に戻ってきた。

「趣味/娯楽/交友」「学習以外のスマートフォンの利用」の時間は、「過少」の割合が最近の3年間は横ばい、あるいは微減の傾向。全体としていずれも増加の傾向にある(2019年度調査なし)。

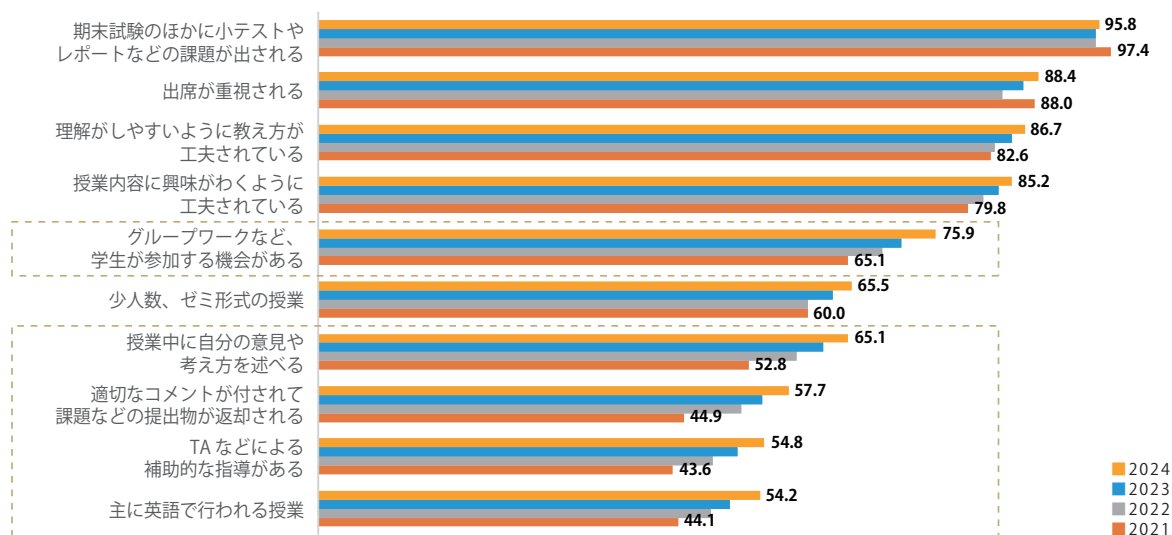
図2 「サークル・部活動」「アルバイト・定職」時間(2019～2024年度)・「趣味/娯楽/交友」「学習以外のスマートフォンの利用」時間(2020～2024年度)・%



2. 経験した授業形態

図3は設問「これまで受けた授業で、次のようなことがどれくらいありましたか？」に対して、各項目に「よくあった」と「ある程度あった」と回答した合計である。図から分かるように、「グループワークなど、学生が参加する機会がある」「授業中に自分の意見や考え方を述べる」「適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される」「TAなどによる補助的な指導がある」「主に英語で行われる授業」での割合はそれぞれ4年間で10%以上増加した。また、「理解がしやすいように教え方が工夫されている」「授業内容に興味がわくように工夫されている」「少人数、ゼミ形式の授業」での割合も増加し続けている。

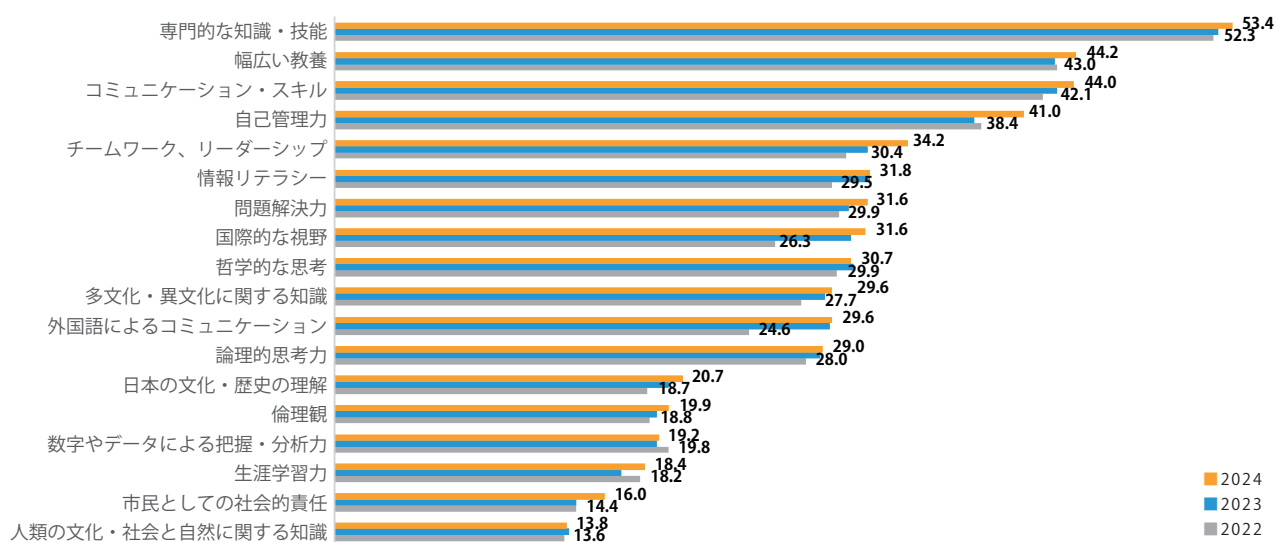
図3 経験した授業形態（2021～2024年度）・％



3. 身に付いた知識・能力

図4は設問「これまでの学習・大学生活を通じて、身に付いたこと」について、2022～2024年度の肯定的な回答の割合を示している。昨年度と同じく、「専門的な知識・技能」「幅広い教養」「コミュニケーション・スキル」「自己管理能力」での割合がトップ4位で、4割以上となっている。また、多数の項目での割合は昨年より増加傾向が見られる。

図4 身に付いた知識・能力（2022～2024年度）・％



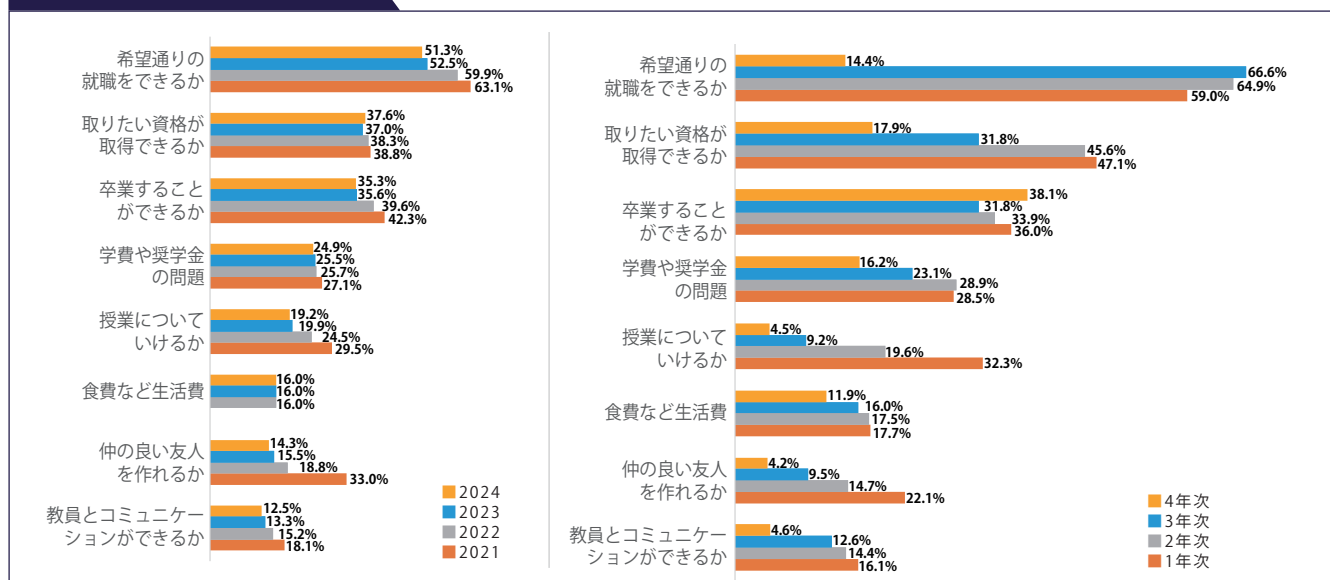
4. 不安・満足度

① 不安を感じること

図5は、設問「現在、不安を感じていること教えてください。（複数選択）」に対する回答を示している。ほとんどの項目で年々割合が減少の傾向にある。とくに、「仲の良い友人を作れるか」「授業についていけるか」「希望通りの就職をできるか」の割合が4年間で大幅に減少した。

また、今年度の学年別の回答を見ると、一般に低学年ほど不安が大きい。「卒業することが出来るか」以外の項目で、4年生の不安の割合が大きく減少している。

図5 不安を感じていること(%)



② 大学、学部・学科への満足度

大学、学部・学科に「満足している」と「やや満足している」の計(%) (以下「満足度」とする)は年度別(図6)で近年ほど高く、また、学年別(図7)では高学年の満足度が高い傾向にある。

図6 大学、学部・学科への満足度(年度別)・%

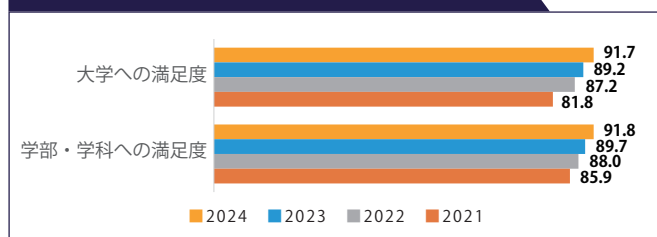
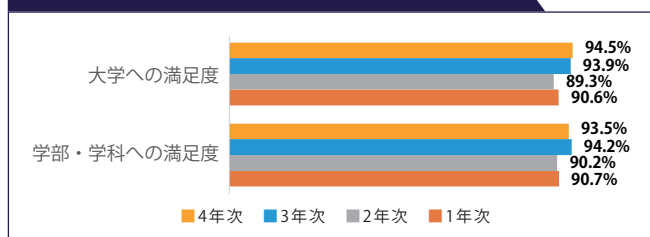


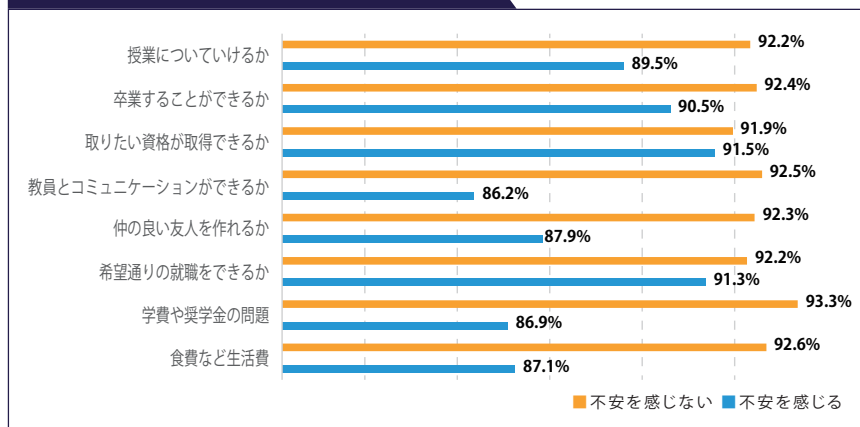
図7 大学、学部・学科への満足度(学年別)・%



③ 「不安」と大学への満足度

図8は、各項目で「不安を感じない」と「不安を感じる」との回答者のそれぞれ大学への満足度の割合を示している。すべての項目で大学への満足度の割合が「不安を感じない」方が高い。とくに「学費や奨学金の問題」「教員とコミュニケーションができるか」「食費など生活費」の項目での両者の割合の差が比較的大きい。

図8 大学への満足度と「不安を感じる」こと



まとめ

学生の「生活時間の変化」から見ると、今年度は、授業に関する学習・自主的な学習時間がいずれも昨年度より増加し、「就職にかかわる活動」時間も増加傾向にある。また、授業・学習外の生活時間は、「サークル・部活動」「アルバイト・定職」「趣味/娯楽/交友」「学習以外のスマートフォンの利用」の時間が全体として増加傾向にある。

これまで受けた授業の中で、「グループワークなど、学生が参加する機会がある」「授業中に自分の意見や考え方を述べる」「適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される」「TAなどによる補助的な指導がある」「主に英語で行われる授業」を経験した割合が近年大幅に増加した。身に付いた知識・能力(自己評価)は多数の項目での肯定的な回答は昨年度より増加している。

不安を感じる項目について年々割合が減少する傾向にあり、とくに、「仲の良い友人を作れるか」「授業についていけるか」「希望通りの就職をできるか」の割合が4年間で大幅に減少した。学年別の回答を見ると、一般に低学年ほど不安が大きく、高学年で不安の割合が大きく減少している。大学、学部・学科への満足度は近年通増し、高学年の方が低学年より満足度が高い。「不安」と大学への満足度については、「不安を感じない」との回答の方が大学への満足度が高い。

(IR室運営委員会報告資料「2024年度在学生アンケートの結果分析」(2025年2月12日)、及び学部別、学年別の単純集計のデータは、新ファイル管理(Googleドライブ)/A.刊行物・統計データ関係/03.統計データ/学生アンケート(IR室)で学内へ公表しています。適宜ご参照ください)